

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぽぽわ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達特性や家庭状況を丁寧に把握し、アセスメントに基づいた個別支援計画を作成している。 「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を意識した支援構成になっている。 定期的なモニタリングと見直しが行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 初回アセスメント時に家庭状況・園での様子・保護者の願いを丁寧に聞き取り、支援目標を「具体的行動レベル」で設定している。 5領域をバランスよく取り入れた活動プログラムを月案・週案に落とし込み、活動が単発で終わらないよう計画的に構成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援目標に「到達指標(例:○回中△回できる)」などの具体的評価基準を設定し、支援効果の可視化を進める。 5領域ごとの年間育成イメージを整理し、発達段階別の到達モデルを作成することで、支援の一貫性を高める。
2	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や面談を通じた日常的な情報共有が丁寧。 子どもの成長を具体的なエピソードで伝えている。 家庭での関わり方について助言を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や困りごとが見られた場合も、否定的表現を避け、「どう支援したか」「家庭での関わり方のヒント」を添えて共有している。 定期的な面談や随時相談を受けられる体制を整え、保護者が安心して相談できる雰囲気づくりを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアレントトレーニングやミニ学習会を定期開催し、家庭での具体的な関わり方を体系的に伝える機会を設ける。 保護者アンケート結果を分析し、改善点や対応方針を公表することで透明性を高める。 就学や進路を見据えた情報提供を強化し、関係機関との連携体制をより明確化する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 保育士・児童指導員等の専門職がチームで支援している。 ケース会議や振り返りを実施している。 外部研修への参加や内部研修の実施がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援終了後に短時間でも振り返りを行い、子どもの反応や支援の妥当性を共有している。 外部研修で得た学びは職員間で共有し、事業所全体の知識として蓄積する仕組みを作っている。 ヒヤリハットや気づきを記録・共有し、「責任追及」ではなく「再発防止・質向上」の視点で活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討会を定期開催し、外部専門職(ST・OT・心理職等)との連携機会を増やす。 新人育成マニュアルやOJTチェックリストを整備し、組織としての支援の質を均一化する。 「優秀な個人の力」から「組織としての強さ」へ高める方向性です。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容や成長の実感はあるものの、成果を客観的・数値的に示す仕組みが十分に体系化されているとは言えない。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の支援を優先する中で、評価指標の標準化まで手が回っていない。 記録様式が職員ごとにやや差がある。 データ分析に充てる時間の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定時に簡易な到達指標を設定する仕組みを導入する。 記録様式を統一し、評価観点を明確にする。 月1回のモニタリング会議で成果を数値とエピソードの両面から確認する。
2	個別相談や日々の情報共有は行っているが、保護者支援プログラムとしての体系的取組は発展の余地がある。	<ul style="list-style-type: none"> 少人数体制のため企画・運営に割く時間が限られている。 保護者ニーズの把握が個別対応中心になっている。 学習会等の開催が不定期である。 	<ul style="list-style-type: none"> 年1~2回のミニ研修会開催を目標とする。 保護者アンケートを活用しニーズを明確化する。 相談支援専門員や関係機関と連携した情報提供を強化する。
3	経験豊富な職員の専門性に支えられている一方で、支援方法が個々の力量に依存する部分がある。	<ul style="list-style-type: none"> 明文化されたマニュアルや育成プログラムが限定的である。 OJTが中心で、段階的育成モデルが明確ではない。 事例共有の仕組みが簡易的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援手順や基本方針の文書化を進める。 年間研修計画を明確にする。 事例検討会を定期化し、支援の標準化を図る。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ぼぼわ
------	-----

公表日 2026年 3月 1日

利用児童数 2026年 2月 1日 現在8名 回収数 6名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6				・限られたスペースですが、子どもに必要な活動内容などを工夫して行っています。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	5		1		・基準数以上を配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4			2	・民家で子どもも親しみやすい。 ・段差などはなくスロープ型の玄関など工夫を行っております。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6				・毎日清掃を行っております。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6			・子どもの特性を理解して頂いており個別の対応を考慮して頂いている。 ・一人一人に寄り添ってもらっていると感じる。	・個別療育であるため、1人1人にあった療育を提供しております。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5		1	・グループ活動を通して、コミュニケーションを学んでいる。	・5領域を網羅した支援・家族支援、身体拘束、家族支援等、支援プログラムに提示した内容について、今後も継続します。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6			・定期的な面談の他、過去の記録も参照し作成されている。	・今後も、お子さんの様子をしっかりと観察し、保護者と合意の上で個別支援計画を作成いたします。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6				・お子さんの発達に沿った支援計画を親御さんの意見や要望を確認しながら具体的な支援内容を提示します。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6			・子どもの特性や性格に合わせて認め、声をかけてくれるので、気づきが増え、落ち着き、成長を感じている。	・職員全員が個々のお子さんの個別支援計画を確認し、療育ごとに、職員間で話し合い、お子さんの成長に沿って支援を行います。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5			1	・連絡帳に毎回異なるプログラムが書かれている。 ・いつも手作りの素敵なアイテムを作ってくれてありがたい。	・活動の流れを一定にしてお子さんに見通しをもって自主的に参加できるようにしています。その中で内容がマンネリ化しないように活動を提供しています。今後も工夫していきます。
11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4			2			
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6				・契約の際に説明させていただいています。今後も変更があれば、その都度説明を行っていきます	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6				・半年に一度面談を行い、振り返りや今後の課題と共に説明をして保護者様と共有しています。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6				・ご家族の困りごと等については、個別にご相談の時間を作っています。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6				・細やかにご連絡頂き情報共有させて頂いております。 ・個人プログラムの後、課題内容や取り組みの様子について伝えさせていただく際は、子どもさんの自尊感情を大切に、状況に配慮いたします。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6				・優しく丁寧に相談に乗っていただいている。 ・送迎時の短い時間で質問してもちゃんと答えてもらっている。	・保護者会等で、子育ての困りごとや悩みを相談できる場を設け、問題解決に向けて対応しています。今後も必要に応じて取り組んでいきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6				・とても親身になっていただいていると感じている。 ・どの先生も温かい視点で見守ってください、親子共々安心して通えた。	・寄り添える支援を行えるように日々取り組んでいます
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6				・保護者会が定期的であり、他の親御さんと交流ができる。 ・定期的に保護者会が開催され、他のお子さんの様子も伺えてとても良い機会だと思う。	・定期的に保護者会を開催しており保護者同士も交流を行っております。今後も開催予定ですので、ご都合が合えば是非ご参加下さい。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6				迅速丁寧に対応して頂いており、親としても安心できる場所になっています。 ・随時相談していただいている。	・心理相談、フィードバック等、できる限り多くの方が利用できるように、契約時にご案内していきます。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					・日頃から保護者様や子どもとのコミュニケーションを大切にしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5			1	・Instagramでの利用の様子が見られるので楽しみにしています。	・ありがとうございます。今後も随時更新していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					・十分気を付けているつもりです。お気づきのことがありましたら遠慮なくお申し出下さい。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5			1		・各マニュアルの定期的な見直しは、今後も継続し、必要に応じて内容の修正を行い、変更内容についてはお便り等でお知らせします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			1		・定期的に防災訓練を実施しています。今後は実施前に予告、実施後には報告をさせていただいています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6					・今後も安全面には十分に配慮し、支援を行っていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5			1	該当事項がないのでわからない	・今後も、事故が起きない、起こさない環境作りを心がけます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6				とてもリラックスして利用できていると思います。毎回とても楽しそうに利用し帰宅後も過ごしたことを笑顔で話してくれます。	・今後も、お子さんが安心して楽しく通っていただけるように、活動内容と環境整備の向上に取り組んでいきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6				最近はとても楽しみにしており、利用の無い日も「今日はぼぼわじゃないの」と聞いてきます。	・ありがとうございます。今後ともかわらぬ支援を志します。・ぼぼわでの時間が楽しい時間となるよう工夫していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	6				子どもの特性を捉えて色々なアプローチで関わって下さり、子の持っているものを大切に下さり、とても有難く感謝です。	・利用児と保護者の方、一人ひとりに寄り添いながら、発達のお手伝いができるよう支援することを心掛けています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
ほぼわ		2026年 3月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・利用定員が少ない日もありますが、見学や体験などにも丁寧に対応しています。	・指定基準に則って利用枠を設定するとともに、お子さんが、安全に集中して活動に参加できるような環境設定について、日々確認しながら、柔軟な対応をしていきます。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		・子どもの人数に対して、大人が十分に配置されているので、丁寧に関われると感じています。	・十分な支援ができるように適切な職員配置の確保に努めます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		外部で道路に面していてフェンス等がない部分があるが、職員の対応にて利用者を見守り十分に考慮して対応している。	現状を維持していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清掃・換気を季節を問わず心掛けています。こまめに清掃を行い心地よく過ごせる環境整備を心がけています。	現状を維持していきます。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・同じ時間にもう一部屋が使われていなければ、子どもがクールダウンするために、別室も使えて良いと思います。	・お子さん達の様子、活動状況、職員配置にあわせて、安全を第一に、必要に応じて個別対応ができる空間の確保をします。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		・毎回の活動に際して、事前の打ち合わせ、事後のカンファレンスを通じて、プログラム目標設定と振り返り、改善を行っています。	・職員が業務改善のPDCAサイクルに参画できるように、業務の視覚化、記録ツールのアップデートをします。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・保護者向け評価表の内容は、今後の業務改善のための貴重なご意見として、職員間で共有し、対応を検討しています。	・ご意見については、随時改善に取り組み、良い部分は維持していきます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・気になった点については、活動の振り返りの時だけでなく、活動前の打ち合わせなど他のスタッフにすぐに相談できる、相談しやすい環境なので、素早い業務改善に繋がりますと感じています。	・職員間で意見を言い合い、業務改善やより良い支援の提供に向けて連携できる環境作りに努めます。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		・現在は行っておらず、今後で検討中です。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・外部の研修についてのアナウンスがあり、研修への参加を積極的に奨励されています。	・外部研修の情報や事業所内研修の企画を積極的に行います。
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		・HPに掲載している。	・今回の結果もHPに掲載します。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		・計画作成者は保護者の方の話を丁寧に聞くことに加え、日々の活動プログラムにもしっかりと関わっているため、こどもの様子をよく理解した上で、支援計画を作成していると感じています。	・全職員で連携しながら、現在のお子さんの様子について多面的にアセスメントをし、保護者の方からの聞き取り内容とすり合わせながら、ニーズに沿った支援計画の作成に努めています。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・支援計画の原案について、お子さんに関わる職員間で共有し、適切な内容となっているか検討する機会が設けられています。	・チームとして、支援に関わる職員が積極的に意見を出し合い、支援ニーズや支援方針について共通認識をもてるよう会議の場を大切にしていきます。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・支援に際して、必ず個別支援計画を確認し、その内容に沿って、日々のプログラムや目標を設定するようにしています。	・各職員が個別支援計画の内容を把握し、それに沿ったプログラムや支援目標を設定できるように、引き続き実施していきます
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		・インフォーマルアセスメントについては、得られた内容を職員間で共有するようにしています。他の職員からその状況や場面などの報告でこどもの状をより正確に把握できていると思います。	・アセスメント内容について、職員間での共有をいくとも、アセスメントについての理解を深められるような学びの機会も確保していきます。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		・ガイドラインの項目に沿って、計画内容の設定がされています。	・ガイドラインの内容について把握し、それぞれのお子さんに必要な支援が適切に盛り込まれた計画の作成を徹底していきます。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・活動プログラムのメイン、サブの担当者だけでなく、直接の担当ではない職員からも様々な案やアイデアをもらい、時には使用する教材を作成して下さったりする。	・ひとりの職員が抱え込むことなく、全職員連携の強みを活かしたチームでの支援を行っています。事業所全体で、より良い支援を検討し、良いアイデアは、他の活動でも活用できるように進めています。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	・プログラムの修正、変更は、チームでよく話し合って慎重に進めている。・こどもの成長度合に合わせてプログラムが作成されているので、継続する内容もありながら少しずつ変化している	・経験の積み重ねを通じて学びを深められるようにプログラムの設定をしています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	特性及び発達状況に合わせて個別と集団のバランスを考えて計画していきます。	日々の気づきを書き留めて、職員間で検討、確認を行います。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	主担当の職員を中心にその日の内容、動きを確認、共有していきます。	現状を維持していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	その日行われた支援について振り返り、気付いた点を共有し次につなげていきます。	現状を維持していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	日々の活動記録を取り、成長や発達に合わせた内容の見直しをしています。	日々の気づきを書き留めて、職員間で検討、確認を行います。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	半年に一度モニタリングを行い、振り返りや今度の課題を保護者の方と共有しています。	普段から気になることを書き留めて振り返りやすくしていきます。
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	担当者会議には、児童発達支援管理責任者が極力出席するようにしています。
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	直接保育所の保育士さんと情報共有のため、お話をする機会を持っています。	現状を維持していきます。
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	保護者の方を通して、支援内容の情報共有と相互理解をする場合と直接お話をする場合があります。	各機関と今以上に開けた事業所を目指します。
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	保護者の方を通して、支援内容の情報共有、直接お話をする場合があります	各機関と今以上に開けた事業所を目指します。
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
30		(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	今後は事業所向けの研修にはできる限り参加し、助言を受けます。	様々な内容の研修会に参加します。
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	・保育園・幼稚園に通われているお子さんも多く、日々の生活の中で、事業所以外の場で他のお子さんと交流や活動をされています。	状況に応じて臨機応変に対応できるよう心がけます。
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	・日々の活動の際に、受け入れ時や活動中、フィードバックの際など、お話を機会を作れるように配慮しています。	・毎回の利用時に、伝え合いや共通理解の場を確保できるように、保護者の方との日々のコミュニケーションを大切にしています。
34		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	ご家族での困りごと等については、個別にご相談の時間を作っています	相談しやすい関係を築けるよう、信頼関係の構築を目指します。
35		運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	・利用前の見学の際、利用開始の契約の際それぞれで説明を行っています。	・利用者の方がわかりやすいように丁寧な説明をするともに、ご理解いただけたか、ご不明な点がないかを確認していきます。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	・ご家族の意向に沿った計画となるように、聞き取り・確認を行っております。	・お子さんやご家族の意向が反映されるよう丁寧な聞き取り、説明をしています。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		・作成した計画の読み合わせをしながら、保護者の方への説明を行っています。	・お子さんのニーズや保護者の方の希望が適切に反映されているか、丁寧に説明することを心がけています。修正が必要な点がないか、保護者の方が意向を伝えやすい雰囲気づくりを、今後も徹底していきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		定期的には保護者の方と話をするなど、対話の時間を大切にしています	・保護者の方が職員に話しやすい関係づくりをするとともに、適切な助言ができるように日々のコミュニケーションを大切にしています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		保護者会等の行事を行い家族で参加して頂き交流の場を設けています。	・保護者同士の交流を希望される声も多いので、保護者会等の機会を増やせるように、企画していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談があったら早急に職員で情報を共有し相談し対応にあたっています	・保護者の方が相談しやすいように、相談の方法や機会の確保をしています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		Instagramでの配信で定期的に配信しています。	分かりやすく見やすいお便りであることを心掛けます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		職員一同、十分に気を付けるようにしています。	現状を維持していきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		お一人お一人の状況に合わせた分かりやすい対応を工夫しています	相談しやすい関係を築けるよう、信頼関係の構築を目指します。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		ご招待はしていませんが、地域の方との関係を大切にしています。	地域に開かれた運営ができるよう交流機会を考えていきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアルを策定し、職員に周知すると共に毎月訓練を実施しています。	様々な事故を想定した訓練を定期的に行います
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		避難訓練は、毎月実施し、一年に一度危機管理課の元、訓練を実施しています	職員と利用者が参加し非常事態を想定した訓練をします。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		契約時に必ずフェイスシートを保護者に記入してもらい確認しています	フェイスシートに変更がある場合はその都度連絡を貰い、記入していきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者からの申し出に対応しています。	フェイスシートに変更がある場合はその都度連絡を貰い、記入していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		・活動時間は短いですが、災害発生時などに利用者および職員の安全確保ができるような対応を検討しています。	・日々の活動では安全面に配慮し、適宜対処して支援を行っています。安全計画については職員全体での共有し、研修などの実施を検討します
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		・利用開始の際に、安全マニュアルに沿って対応している旨を保護者の方に周知しています。	・保護者の方に安全計画に基づく取り組み内容をわかりやすく周知する方法を工夫していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・ヒヤリハットに加え、ケガなどの可能性が予測される「想定ヒヤリハット」についても対策を確認・共有しています。	・ヒヤリハット事例を再発防止に役立てるとともに、想定ヒヤリハットの視点についても職員全体で意識することで、未然に防ぐ対応にも努めていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止委員会を作り、意識向上のための研修を実施しています。	現状を維持していきます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		・原則として身体拘束は禁止としたうえで、気持ちの崩れなどで、お子さん自身にケガの危険が予測される行動のある場合は、事前に保護者の方とも対応を確認し、支援計画に記載しています。	・身体拘束は禁止であるということを前提にお子たちが安全に、保護者の方が安心してご利用いただけるように、最善の対応を検討していきます。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぽぽわ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用前のアセスメント、半年に一度のモニタリングをしっかりと行い、職員、家族が個別支援計画に関する話し合い参加できる形を作り、具体的で丁寧な個別支援計画の作成を行っている。	・子どもの発達を様々な方向から評価し、一人ひとりにあった療育方法を検討し実践している。 ・支援会議の実施や支援連絡表を活用し、支援の見直しや統一した支援ができるように情報共有を行い、常に改善している。	・評価やアセスメントを重視し、子どもの強みを活かした支援や弱みに対する支援方法の検討や環境設定を行う。今後もよりよい支援を行っていきけるよう日々改善していく。 ・事故や怪我などのないよう安全管理と衛生管理の徹底を行い、安心して利用していただける場所となるように努める。
2	・職員間の情報共有を大切に、チームとして連携を図りながら、利用児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を行っている。また、職員の知識や技術の向上を重視し、支援の質の向上に継続的に取り組んでいる。	・職員一人ひとりの知識と技術の向上を図る為に外部研修にも積極的な参加を促している。	・定期的な研修会への参加を通して療育や専門知識の向上を図るとともに、今後も職員間の情報共有を進め、チーム内の連携強化により、より良い支援の提供を目指していく。
3	・ご家族に対して子ども達の様子をしっかりと伝え、必要な情報提供を行っている。 ・必要に応じて定期的な面談以外にも臨時で面談をしたり、家庭訪問や電話での相談を受け付け、ご家族の不安や困りごとに寄り添っていきけるような体制づくりを行っている。	・管理者・児童発達支援管理責任者と現場職員でご家族との話は共有するようにし、現場職員の気づきからも管理者・児童発達支援管理責任者が保護者対応に向かえる体制づくりをしている。 ・送迎でその日の様子をお伝えするなど日頃から現場職員とご家族もコミュニケーションを図るようにしている。	・今後も現場職員と管理者・児童発達支援管理責任者がコミュニケーションをしっかりと図り、全職員で支援が行えるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者への情報発信について、現在はアセスメント時の面談や連絡帳への記載、写真の共有、送迎時の口頭での説明が中心となっており、事業所での活動の様子や取組について十分に伝えきれていない部分がある。	・療育内容について、アセスメント時の面談、連絡帳への記載や写真、送迎時のお伝えのみになってしまい、子どもたちがどのように過ごしているのかがわかりにくい。 ・事業所の取り組み(療育課題や安全管理:避難訓練等)についての情報が少ない	公式SNS(Instagram)等を活用し、子どもたちの支援の様子や活動内容を定期的に発信していく。 また、事業所の理念や支援方針についても公開することで、保護者や地域の方に事業所の取組をより理解していただき、利用しやすい事業所となることを目指す。
2	災害時や事故発生時の対応については利用開始時に説明を行っているが、施設設備の案内や日常の安全管理、避難訓練の実施内容などについて、保護者への情報提供が十分とは言えない面がある。	・利用開始時には災害、事故の対応については説明を行っているが、設備の案内や日々の安全管理についてはわかりにくい面もある。 ・避難訓練では実施時には連絡用へ記載を行っているが、事前に案内することがなく、どのように実施されたかを明確に記す必要がある。	・利用開始時の説明は今後も継続していく。見学時、契約時には施設の案内を行い、衛生面や安全面を確認してもらう。 ・安全管理マニュアルや災害時等の対応について保護者の理解を深めてもらうように、具体的な連絡方法を記載した文書配布などで安心して利用してもらえるように改善する。
3	地域との交流の機会が少なく、事業所の取組や児童の成長を共有する機会が十分とは言えない面がある。	日々の支援は保護者との個別のやり取りが中心となっており、保護者同士が交流する機会や、事業所の活動内容を広く共有する機会を設けることが十分にできていない。 また、地域との関わりについても、事業所内での支援が中心となっているため、地域に向けた情報発信や交流の機会が少ない状況である。	保護者が事業所の活動や子どもたちの様子を理解しやすいよう、行事や活動の様子を共有する機会を検討していく。 また、地域の関係機関との連携や情報発信を進めることで、地域とのつながりを意識した事業所運営を目指していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ぼぼわ

公表日 2026年 3月 1日

利用児童数 2026年 2月 1日 現在18名

回収数 14名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14				・十分な広さが確保されています。子供にとって安心できる丁度よいスペースだと思います。	・限られたスペースですが、子どもに必要な活動内容などを工夫して行っています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12			2		・基準数以上を配置しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14				・来所や帰宅時、自分自身で身支度ができるよう絵カードや写真、棚などの配置もとても工夫してくださっています。	・段差などはなくスロープ型の玄関など工夫を行っております。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13			1		・毎日清掃を行っております。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14				・専門性の高い先生しかいらっしやらないと思います。いつも心から安心して子供を預けています。	職員全員が外部研修に参加しています。また、日々子供たちの様子をチームで話し合いながら支援を行っています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14					・5領域を網羅した支援・家族支援、身体拘束、家族支援等、支援プログラムに提示した内容について、今後も継続します。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14					保護者のニーズを日常的に聞き取り、より丁寧に支援できるよう、計画の見直し配慮を含め全職員で協議していきます。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14					・お子さんの発達に沿った支援計画を親御さんの意見や要望を確認しながら具体的な支援内容を提示します。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14					・朝の職員ミーティングの折に個別支援計画のねらいを全員で確認し、常に支援計画を意識した支援を目指しています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14					・今後も、子供たちが楽しく取り組めるプログラムを日々工夫しながら活動してまいります。
11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	12	1		1		児童館を活用した交流などを行っております。	
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14				・いつも丁寧に説明していただきます。	・契約の際に説明させていただいています。今後も変更があれば、その都度説明を行っていきます
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14				・はい。説明していただきました。	・半年に一度面談を行い、振り返りや今後の課題と共に説明をして保護者様と共有しています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13			1	・家族支援プログラムを開いてくださいました。また、発達障害の特性や息子の行動の意味・心の動きなど専門的目線でアドバイスを頂けてとても助かっています。	・ご家族の困りごと等については、個別にご相談の時間を作っています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	14					定期面談等に加えて日常的に共通理解を計りながら、必要に応じた対応を行います。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14				・行われています。ありがとうございます。	・保護者会等で、子育ての困りごとや悩みを相談できる場を設け、問題解決に向けて対応しています。今後も必要に応じて取り組んでいきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					職員によって対応が異なるように、共通認識を持ち、より共感性のある支援を心がけたい。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14				・保護者会開催時、保護者同士の交流のため座談会がありました。楽しかったです。ありがとうございました。	・定期的に保護者会を開催しており保護者同士も交流を行っております。今後も開催予定ですので、ご都合が合えば是非ご参加下さい。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14				・契約時にしっかり説明していただいています。体制整っています。	・心理相談、フィードバック等、できる限り多くの方が利用できるように、契約時にご案内していきます。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14					・日頃から保護者様や子どもとのコミュニケーションを大切にしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14				・Instagramで利用の様子が見られて安心しています。	・ありがとうございます。今後も随時更新していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14					・十分気を付けているつもりです。お気づきのことがありましたら遠慮なくお申し出下さい。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11			3		・各マニュアルの定期的な見直しは、今後も継続し、必要に応じて内容の修正を行い、変更内容についてはお便り等でお知らせします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12			2		・定期的に防災訓練を実施しています。今後は実施前に予告、実施後には報告をさせていただいています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12			2	・部屋の状況と設備についても契約時丁寧に説明してくださいました。安全の確保、十分に行われています。	・今後も安全面には十分に配慮し、支援を行っていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14					・今後も、事故が起きない、起こさない環境作りを心がけます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14				今日はぼぼわだね！と楽しみに学校に行っています。・嫌がる様子も見せずにごちらも安心しています。	・今後も、お子さんが安心して楽しく通っていただけるように、活動内容と環境整備の向上に取り組んでいきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	1			先生方の関わりが素晴らしいおかげです。ありがとうございます。・毎回とても楽しみに通所していて、できる事も増え、自信に繋がっています。	子どもが通所を楽しみにできる場とすると同時に、楽しければなんでも良いにならないよう意図を持った丁寧な支援と交友関係を広げられるような工夫をしながら環境作りに努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14					・利用児と保護者の方、一人ひとりに寄り添いながら、発達のお手伝いができるよう支援することを心掛けています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ほぼわ		公表日				2026年 3月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		利用人数や活動内容に応じてスペースを区分し、落ち着いた活動できる環境づくりに配慮している。	活動内容によってはスペースが手狭に感じる場面もあり、配置や使い方の工夫を検討していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		利用児童の特性や人数に応じて職員配置を調整し、安全に配慮した支援体制を整えている。	利用状況によっては個別対応が増えるため、職員間の連携や役割分担をさらに工夫していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		外部で道路に面してフェンス等がない部分があるが、職員の対応にて利用者を見守り十分に考慮して対応している。	現状を維持していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清掃・換気を季節を問わず心掛けています。こまめに清掃を行い心地よく過ごせる環境整備を心がけています。	現状を維持していきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		集団活動や、個別に応じて臨機応変に環境を整えています。	現状を維持していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		日々職員間で情報を共有し、ケースカンファレンスを定期的に行っています。	定期的にカンファレンスを行えるよう、予定表に記入して全職員に周知する	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		会議にて共有し、協議しています。	定期的にカンファレンスを行えるよう、予定表に記入して全職員に周知する	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日々の打ち合わせで翌日の改善などが反映されています。	必要な情報はメモにして周知する。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	今後必要に応じて検討していきます。	今後必要に応じて検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		スタッフミーティングを実施しています。	様々な内容の研修会を実施する。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページにて公表しています。	現状を維持していきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		児童発達支援管理責任者を中心に、面談や日々の様子を踏まえアセスメントを行い、計画作成に反映している。	児童の成長や状況の変化に応じて、アセスメント内容の見直しや情報共有を継続して行っていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		児童発達支援管理責任者を中心に職員間で情報共有を行い、児童の状況や支援方法について検討している。	支援内容の共通理解をより深めるため、職員間での情報共有やケース検討の機会を充実させていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		ケース検討会に全職員が参加。計画案を協議し周知しています。また、毎日のミーティングにおいてどこを支援するか明確にして支援しています。	全職員間で、しっかり確認していきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		事業所独自の物を使用し、お子さんや保護者の方の状況やご要望を理解するためのアセスメントを心がけます。	日々の気づきを書き留めて、職員間で検討、確認を行います。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		保護者の方のご要望を大切にお子さんに必要な支援の内容をわかりやすい文章で表現するようにしています	現状を維持していきます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・様々なプログラムがあっという間です。 ・チームで立案し、会議にて内容を協議しています。	日々の気づきを書き留めて、職員間で検討、確認を行います。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	児童の興味関心や発達段階に応じて活動内容を工夫し、季節行事や制作活動、集団活動など多様な体験ができるよう取り組んでいる。	活動内容が固定化しないよう、職員間で意見を出し合いながら新しい活動プログラムの検討や工夫を継続していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	児童一人ひとりの特性や発達段階を踏まえ、個別活動と集団活動を組み合わせた支援計画を作成し、状況に応じた支援を行っている。	児童の成長やその日の状態に応じて活動のバランスを見直し、より効果的な支援となるよう工夫を重ねていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	毎日打ち合わせを行い、チームで支援の確認を行っています。朝の打ち合わせに全員が参加できることは強みになっていると思います。	現状を維持していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	5	毎日支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しています。終礼にいない職員には、翌日の始業ミーティングの際に伝えていきます。	現状を維持していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	終業時に出た意見を基に、常に改善するよう努め、より良い支援を目指しています。	日々の気づきを書き留めて、職員間で検討、確認を行います。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	定期的にモニタリングを実施し、児童の成長や日々の様子を踏まえて放課後等デイサービス計画の見直しや支援内容の確認を行っている。	児童の状況変化をより適切に把握できるよう、日々の記録や職員間の情報共有をさらに充実させていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	自立支援や創作活動、地域交流、余暇活動等の基本活動を意識し、児童の状況や興味に応じて複数の活動を組み合わせた支援を行っている。	活動内容が偏らないよう、ガイドラインの基本活動を意識しながら職員間で内容を確認し、より充実した支援につなげていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	活動内容や遊びの中で複数の選択肢を示し、児童が自分で選ぶ機会を設けることで、自己決定や主体的な行動につながる支援を行っている。	児童の特性に応じた選択の方法や提示の工夫を工夫し、より多くの場面で自己選択の機会を広げていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	児童の状況や日々の様子をよく理解している職員や児童発達支援管理責任者が会議に参加し、支援状況の共有や意見交換を行っている。	会議内容を事業所内で共有し、全職員が共通理解のもと支援できるよう情報共有の充実を図っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	相談支援事業所や学校、関係機関と情報共有や連絡調整を行い、児童の状況に応じて連携しながら支援を行う体制づくりに努めている。	必要に応じて関係機関との情報共有や連携の機会を増やし、より切れ目のない支援体制の充実を図っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	学校と年間行事予定や下校時刻等の情報共有を行い、送迎時の引き継ぎや日々の連絡を通して、円滑な支援につながるよう努めている。	学校との情報共有の方法を引き続き工夫し、必要な情報が職員間でも共有されるよう連携体制の充実を図っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		積極的に情報共有に努めます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		積極的に情報共有に努めます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		外部専門職（心理士）による定期的なスーパーバイズを実施し、職員個別相談やケース検討を通して支援の振り返りと専門的助言を受けている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	公園や地域行事への参加などを通して、地域の子どもたちと関わる機会を持てるよう活動内容の工夫に努めている。	地域の関係機関や施設との連携を深め、児童の状況に配慮しながら交流の機会を広げていくことを検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	地域の自立支援協議会や関係機関の会議等に参加し、地域の支援状況の把握や情報共有を行うよう努めている。	参加した内容を事業所内で共有し、日々の支援に活かしていけるよう職員間での情報共有を充実させていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	送迎時の引き継ぎや連絡帳等を活用し、日々の様子や成長の様子を保護者へ伝えることで、発達状況や課題について共通理解を図っている。	保護者との情報共有の方法を工夫し、必要に応じて面談等の機会を設けながら、より丁寧な連携を図っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	日々の連絡や面談等を通して家庭での関わり方について助言を行うほか、必要に応じて支援に関する情報提供を行っている。	相談しやすい関係を築けるよう、信頼関係の構築を目指します。家族支援の充実を図るため、保護者が参加できる研修やペアレント・トレーニング等の機会について検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	利用開始時に重要事項説明書等を用いて、運営規程や支援内容、利用者負担について丁寧に説明し、理解を得られるよう努めている。	利用開始後も必要に応じて内容を再確認できるよう、保護者への継続的な説明や情報提供の工夫を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	計画作成時には面談等を通して、こどもや保護者の意向や困りごとを確認し、最善の利益を考慮した支援内容となるよう努めている。	相談しやすい関係を築けるよう、信頼関係の構築を目指します。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	作成した放課後等デイサービス計画を保護者へ説明し、支援内容や目標について理解を得たうえで同意をいただくよう努めている。	保護者がより理解しやすい説明となるよう、日頃の様子や具体例を交えながら丁寧な説明を心掛けていく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			相談しやすい関係を築けるよう、信頼関係の構築を目指します。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		保護者会等の行事を行い家族で参加して頂き交流の場を設けています。	保護者同士の交流を希望される声も多いので、保護者会等の機会を増やせるように、企画していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			相談しやすい関係を築けるよう、信頼関係の構築を目指します。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		Instagramでの配信で定期的に配信しています。	分かりやすく見やすいお便りであることを心掛けます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		職員一同、十分に気を付けるようにしています。	現状を維持していきます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			相談しやすい関係を築けるよう、信頼関係の構築を目指します。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			地域に開かれた運営ができるよう交流機会を考えていきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアルを策定し、職員に周知すると共に毎月訓練を実施しています。	様々な事故を想定した訓練を定期的に行います
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		避難訓練は、毎月実施し、一年に一度危機管理課の元、訓練を実施しています	職員と利用者が参加し非常事態を想定した訓練をします。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		契約時に必ずフェイスシートを保護者に記入してもらい確認しています	フェイスシートに変更がある場合はその都度連絡を貰い、記入していきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者からの申し出に対応しています。	フェイスシートに変更がある場合はその都度連絡を貰い、記入していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		活動時間は短いですが、災害発生時などに利用者および職員の安全確保ができるような対応を検討しています。	日々の活動では安全面に配慮し、適宜対処して支援を行っています。安全計画については職員全体での共有し、研修などの実施を検討します
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		利用開始の際に、安全マニュアルに沿って対応している旨を保護者の方に周知しています。	保護者の方に安全計画に基づく取り組み内容をわかりやすく周知する方法を工夫していきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットに加え、ケガなどの可能性が予測される「想定ヒヤリハット」についても対策を確認・共有しています。	ヒヤリハット事例を再発防止に役立てるとともに、想定ヒヤリハットの視点についても職員全体で意識することで、未然に防ぐ対応にも努めていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止委員会を作り、意識向上のための研修を実施しています。	現状を維持していきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		原則として身体拘束は禁止としたうえで、気持ちの崩れなどで、お子さん自身にケガの危険が予測される行動のある場合は、事前に保護者の方とも対応を確認し、支援計画に記載しています。	身体拘束は禁止であるということを前提にお子たちが安全に、保護者の方が安心してご利用いただけるように、最善の対応を検討していきます。	